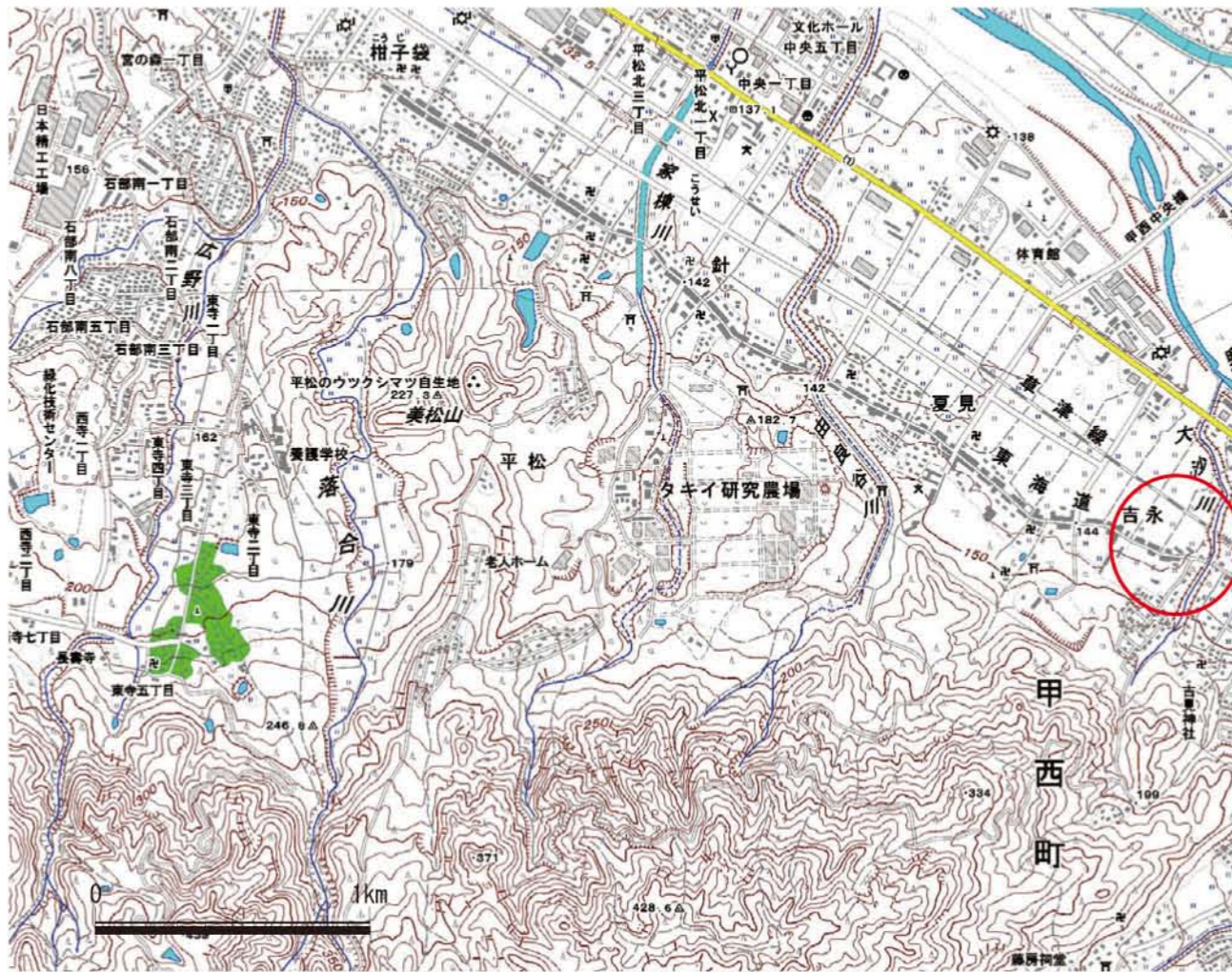


周辺の
みどころ

- 国宝長寿寺本堂
内陣の入母屋形、外陣の寄棟形の化粧屋根裏を覆って外部屋根をかける。意匠的に優れ、古様をよく伝える鎌倉時代前期の和様仏堂の代表的優作。
- 国天然記念物平松のウツクシマツ自生地
根に近いところから幹が分かれ、上部は傘を広げたように葉が広がる樹形の美しい松。江戸時代には名所図会などで広く紹介されている。



長寿寺本堂



【アクセス】
● JR草津線「甲西駅」下車
コミュニティバス8分
ふれあい号甲西南線「吉永」バス停下車すぐ

【もっと詳しく知りたいひとへの案内】
(関連文献・関連施設)

● 滋賀県教育委員会『滋賀県の近代化遺産』平成12年

てんじょうがわ おおすながわ ずいどう
天井川と大沙川隧道
湖南市吉永



大沙川隧道と弘法杉

川は古来より人々に恵みを与えると共に、時には人の往来を隔て、洪水を引き起こし、人々の生活を脅かす存在でもあった。

滋賀県の河川は、中央に琵琶湖を有する巨大な盆地状の地形から、周囲に連なる固結した堆積物からなる山々を源とし、流路延長が短く、急勾配で、砂礫を大量に運ぶ。そのため、周辺より河床が著しく高い天井川が、数多く形成されている。

滋賀県の特徴的な河川・天井川に穿たれた隧道は、交通の障害である天井川を、明治時代に西洋から導入された技術を使い、道を開いた。

その生き証人の一つにして、現役最古の隧道。まさしく今に伝わる水の宝である。





大沙川隧道東側坑門



大沙川隧道西側坑門



大砂川堤上の弘法杉



大沙川隧道刻銘



由良谷川隧道

天井川と大沙川隧道

所在地 湖南市吉永

湖南市の天井川

大沙川隧道は、湖南市のJR草津線甲西駅の南東約2.5kmの旧東海道と大砂川が交差する位置にある。

この周辺の南側には、甲賀市信楽町へと続く山々が迫っている。今では緑に覆われているが、明治時代末頃には樹木がほとんど無く、そのため、山々を水源として流れ出る大砂川、由良谷川、家棟川は、砂を運び、天井川となっていた。

これら3筋の川は、西か東へ約2.5kmの間に平行して北流し、それらが全て天井川となって旧東海道を横切り、街道を行き交う人々の障害となっていた。このため、明治時代に入り、石造の道路隧道をそれぞれの天井川の下に設け、道路を整備することとなった。

大沙川隧道

大沙川隧道は、内部の側壁刻銘「明治十七年四月築造」が示すとおり、滋賀県下で最も早い時期の道路トンネルとして建設され、3つの隧

道の中でも最も早く建設された。

隧道は、長さ16.4m、高さ4.6m、幅4.4m、半円アーチ断面、花崗岩切石造で、石の積み方は、切石整層積みである。平均的な切石の大きさは、長さ68cm、厚さ30cmである。

坑門は、最上段（1段目）の笠石とアーチ環に接する5段目の帯石を少し前に出して積む。その間に挟まれる2～4段目の胸壁（パラペット）には、「大沙川」と陰刻された題額が中央に納められている。帯石の下から8段目は、アーチ部分とその部分よりも下の壁との境目、スプリングラインとなる。スプリングラインは、上端を斜めにし下端に線形を持つ水切状の装飾的な石を用いている。その下に更に7段の石を積むが、最下段の石積は、高さの半分程度が道路に埋もれている。

坑門のアーチ環は、周囲より中央部分を高く加工した五角形の盾状迫石を左右から10段ずつ積み、頂部に要石（キーストーン）を収める。大沙川隧道は、建設当初の位置で現存する現役

の石造道路隧道としては、日本最古であり、旧東海道の整備を目的に、滋賀県特有の天井川を克服するために設けられた隧道としても貴重である。

なお、隧道上の大砂川堤に生える杉は弘法大師に由来するとされ、樹齢約750年、樹高26m、周囲6m。市指定文化財となっている。

由良谷川隧道・家棟川隧道

大沙川隧道から1.5km西側にある由良谷川隧道、更に800m西側にある家棟川隧道は、明治19年(1886)年に建設された。

由良谷川隧道は、長さ16.0m、高さ3.6m、幅4.5m、欠円アーチ断面。家棟川隧道は、長さ21.8m、高さ3.6m、幅4.5m、欠円アーチ断面であったが、残念ながら昭和54年(1979)に河川改修のため撤去され、現在は、「家棟川」と陰刻された題額だけが、路傍に残されている。